

グリーンコープ30周年記念の大きな講演会が開かれました



# 遺伝子組み換え食品反対!!

## 世界の仲間と共に力強くすすめていこう

遺伝子組み換え(以下、GM)作物の輸入が開始されてから22年。グリーンコープは一貫して、GM作物・食品に反対しています。3年前、GM問題の専門家であるジェフリー・M・スミスさんを招き、監督された映画を通して、GM作物による健康被害が報告されていくことを知りました。2年前には、米国で母親の立場からGM作物に反対するゼン・ハニーカットさんと出会い、講演会を通して、同じ母親として共にGM反対運動に連帯して取り組んでいくことになりました。

30周年を迎えるにあたり、安心・安全な食べものを提供する生活協同組合として、グリーンコープは改めて「GM作物に警鐘を鳴らし、広く組合員内外に伝えていく」ことを提起。海外でGM問題に取り組むお二人を講師に、単協が主催する映画会・講演会を開催しました。

2018年11月・12月に開催されたそれぞれの講演会の要旨と併せて、11月29日に東京で開催されたゲノム操作された食品の安全審査に関する緊急院内学習会の様子も報告します。

### グリーンコープが取り組んできたGM作物反対運動

1996年、日本でGM作物の輸入が許可されました。それ以降、グリーンコープは、食の安全を脅かし生物多様性を破壊するGM作物に反対する姿勢を貫いてきました。全国の同じ思いを持つ仲間と共に、GM作物が栽培されていない地域を駆けよつというGMフリーゾーン運動や自生GMナタネ汚染調査活動、GM食品に表示を求めた運動などに取り組んでいきます。取り扱う商品についてもnon-GMOを追求しています。

GM反対運動や学習会などを通じて、組合員一人ひとりがGM作物について学び、周りの人に正しい情報を伝えていくことが、食べものの安心・安全を守ることに繋がると考えています。

※1 遺伝子組み換え作物・食品 ※2 遺伝子組み換えではない

### ゼン・ハニーカットさん 講演会

ふくおかは、2018年12月17日、「Moms Across America」代表のゼン・ハニーカットさんを招いて講演会を開催し、325人が参加しました。

ゼンさんは、参加した組合員に「母親たちが、GM作物で食べものの安全が脅かされている現状を変えていこう」と力強く呼びかけました。



ゼン・ハニーカットさん 米国でGMに反対する母親の会「Moms Across America (ママズ・アクロス・アメリカ)」創設者

### 米国も日本も子どもの健康を願う母親の思いは同じ

グリーンコープは設立以来、「4つの共生」の理念を基に、食べものの運動だけでなく子育て支援や高齢者福祉、平和、自然エネルギー、生活困窮者支援などにも取り組まれています。母親たちがワーカーズとなり、想像力と行動力を持って活動されていくことはすばらしいし、勇気と思いやりがなければできなかったことだと思います。

今、世界は私たちの想像をはるかに超えるような変化をしています。これからの30年に向けて、私たちがどのような行動を起こしていくかが大切になると思います。自分や家族の健康を守り、環境を守るために、私たち一人ひとりができること、グリーンコープとしてできることを一緒に考えていきたいと思います。

### 子どもたちの食べものからGM作物・食品を排除

今日は、私の愛する子どもたちを苦しめた様々な症状の原因を突き止める劇的に改善することができた経験や、皆さんと共有したいと思っています。私の息子ボビーは、8歳の頃に突然成績が落ち、怒りっぽくなつて何も手に付かなくなりました。発疹や腹痛などの症状が表れ、不規則な行動も目立つようになりました。医師は、腸内の悪い菌や細菌による消化不良、リーキーガット症候群(腸に穴があく病)、21種類の食物アレルギー症状、脳の炎症と診断しました。息子の尿を調べて非常に高い値のグリホサートが検出されました。私は食べものが原因ではないかと考え、それまでの食を見直し、息子が口にできるものを100%オーガニックでnon-GMOのものに変えました。

### ジェフリー・M・スミスさん 講演会

2018年11月、ジェフリー・M・スミスさんを招いて、ひろしま、やまぐち、ふくおか、おわたの各単協が講演会を開催しました。11月20日、やまぐちの主催でジェフリーさんが監督した映画「遺伝子組み換えルーレット」が上映された。上映会と講演会が下関市で行われ、150人が参加しました。



ジェフリー・M・スミスさん 米国生まれ。IRT(責任ある技術者協会)創設者。GM問題の専門家。消費者運動のリーダーとして国際的に活躍



やまぐちで行われた講演会の様子。「遺伝子組み換えルーレット〜私たちの生命のギャンブル〜」は、米国で起きているGM食品による被害を訴えるために、米国で制作されたドキュメンタリー映画

### 一人ひとりができることを

やまぐち理事長の佐々木春代さんは、「グリーンコープは安心・安全な食べものを子どもたちに食べさせたいという思いから誕生し、今年30周年を迎えました。時代を経てなおその思いは変わらず、安全性が確認されていないGM作物の根絶を目指し、GM反対運動に取り組んでいます。今日の講演を聞いて、私たち一人ひとりができること、一人ひとりができることと挨拶しました。講演後ジェフリーさんと組合員との活発な質疑応答が行われ、GM反対への思いをより一層強くしました。

### 子どもの健康のために! 遺伝子組み換えではない食品を選ぼう!

すると症状は治まり、完治したので。グリホサートが小児用ワクチンからもラウンドアップが大量に散布されることにより、グリホサートが残留したGM食品が、食品の原料や家畜の飼料になり、私たちの食卓に上っています。私たちが行った調査では、人の尿や母乳、水道水からもグリホサートが検出され、さらに驚くことに、小児用ワクチンからも検出されました。ワクチンは、牛や豚由来のゼラチンで作られており、飼料の原料となつたGM食品にグリホサートが残留していると思われま。

### GM反対を意思表示

講演後、組合員が米国を訪問し、今後はnon-GMOトウモロコシ・大豆を安定的に確保するために、生産者がnon-GMOのものを選びたいと伝えた様子を報告。また、ふくおかが、一般の菓子や離乳食取り扱いメーカーに、原料にGM食品を使用しているかをGM技術内容の手紙を出し、GM食品は食べたくないと思える取り組みなどを報告しました。

最後にふくおか理事長の三原幸子さんが、「ゼンさんの話を聞いて感じたことを、今日参加した皆さんが身近な一人と言わ

### 共に手を携えて遺伝子組み換え作物・食品(以下、GM)に反対していこう

#### 講演要旨

GM作物には、「除草剤耐性」「殺虫性」、両方の性質を持った作物がある。米国では大量のGM食品が消費されている。GM食品を食べることをやめると体にどんな変化が起きるか調査を行い、データから28の症状や病気が改善することが分かった。GM食品を食べることをやめた人のうち、80%以上が胃腸の症状が改善したと答えた。GM食品を与えるのをやめたペットや家畜にも同様に改善が見られた。GM作物は人や動物の体調に大きく影響していると考えられる。

GM作物が私たちの体に様々な症状を引き起こす原因は、主に次の3つだと考えている。

- ① 遺伝子を組み換えたことにより、安全性が確認されていないGM作物の根絶を目指し、GM反対運動に取り組んでいます。今日の講演を聞いて、私たち一人ひとりができること、一人ひとりができることと挨拶しました。
- ② 殺虫性GM作物に含まれるBt毒素は有害である可能性が大きい。Bt毒素は、その作物を食べた昆虫の腸壁に穴を開けて殺す。実験では、殺虫性GMコーンが人間の細胞に穴を開けることも報告された。腸に穴が開くと、がんやアレルギーなどを引き起こすと言われている。
- ③ 除草剤耐性GM作物の栽培時に使われるラウンドアップなどの除草剤に耐性を持つ雑草が出現したため、さらに大量の除草剤が使用されるようになり、その結果、食物に除草剤の成分が残留するようになった。

様々な疾患を引き起こすグリホサート

グリホサートは、ラウンドアップの有効成分。グリホサートは、体内に取り込まれると体内のミネラル不足を招くと言われている。また、抗生物質と同様の働きもあり、体内の有用なバクテリアを攻撃して様々な症状を引き起こす。セロトニンなどの神経伝達物質を抑制する可能性もあり、精神の不調を引き起こす原因にもなりうるという報告されている。

世界保健機関(WHO)の専門家組織である国際がん研究機関(IARC)は2015年、グリホサートは人間や動物に対する発がん物質の疑いがあり、がんの発現につながるDNAの突然変異を引き起こす可能性があるという報告している。

グリーンコープの皆さんは、グリーンコープから発信される情報や運動からGM作物の危険性を知り、周囲の人々に伝えていくことができます。GM食品の広がりを止めることができるのは私たちしかない。日本が手をつないでこの世界を変えていこう。

グリーンコープの皆さんは、グリーンコープから発信される情報や運動からGM作物の危険性を知り、周囲の人々に伝えていくことができます。GM食品の広がりを止めることができるのは私たちしかない。日本が手をつないでこの世界を変えていこう。

### 緊急院内学習会 2018年11月29日 食の安全を軽視する国の動きを阻止するために!!

グリーンコープは、長年GM反対運動に取り組んできましたが、近年GMよりも簡単に操作できるゲノム編集技術で操作された食品の開発が国内外で急速に進んでいます。11月29日、危機感を抱く市民団体が全国から集まり、緊急院内学習会を開きました。グリーンコープからは12人の組合員が参加しました。

厚生労働省の調査会が、ゲノム編集技術で操作された食品の安全審査を行うか否かについて、議論を開始したことを受けて、厚生労働省や、食品安全委員会、消費者庁の職員へ質問し、意見交換を行いました。

遺伝子組み換え食品の問題点

参加者は、「食べものについては情報を開示してほしい」、「ひとりの母親として、ゲノム操作された食品は子どもや孫に食べさせたくない」と訴えました。

### 母親の行動は世界を変える

ずい二人に伝えることで千人に伝わりやすくなります。私たちが行動することで、食品メーカーを変えていくことができると思っています。ママズ・アクロス・アメリカが米国の各地でイベントに参加して、リードをしているように、私たちも楽しみながらGM反対運動ができたらいきたいと思います。これからはどのように取り組んでいくのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます」と締めくくりました。



2019年7月 シャボン玉月間ポスター募集

でき上がり寸法: A3(縦42cm×横29.7cm) 色: カラー (紙またはデータ(PDF))

必ず入れる文字: 「せっけんライフはハッピーライフ〜地球がよるこぶ毎日〜」(2019年キッズコピー)

内容: 「せっけんを使う暮らしの提案」、「水環境保全についての提案」など ※裏面に住所、氏名、電話番号、所属 生協名を明記する

締切り: 2019年2月16日(詳細は所属生協へお問い合わせください)

送り先: 所属生協にお届けください (配達時に手渡しまたは郵便で)

賞金: 3万円(採用作品のみ)

緊急院内学習会後の動き

12月5日、厚生労働省の調査会で、「遺伝子を切断するだけのものは規制の対象とせず、安全審査を行わない」という報告が取りまとめられました。このままでは開発中のゲノム操作食品の多くがこれに当てはまり、国への情報提供(法的義務はない)だけで販売が認められます。今後、ゲノム操作された食品が、安全性の確認がされないまま、私たちが知らないうちに食卓に登場することになるかもしれません。私たちは引き続き声を上げ続けなければなりません。